

製品名: リン酸化 RPS6 (Ser240/Ser244) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87775**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:200-1:500,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:29 kDa; Observed MW:32 kDa

抗原情報

遺伝子名	Phospho-RPS6
別名	S6
遺伝子 ID	6194
SwissProt ID	P62753
免疫原	ヒト RPS6 の Ser240/Ser244 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

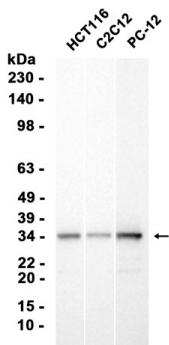
背景

タンパク質合成を触媒する細胞小器官であるリボソームは、小さな 40S サブユニットと大きな 60S サブユニットから構成されています。

す。これらのサブユニットは、4種類のRNAと約80種類の構造的に異なるタンパク質で構成されています。この遺伝子は、40Sサブユニットの構成要素である細胞質リボソームタンパク質をコードしています。このタンパク質は、リボソームタンパク質のS6Eファミリーに属します。これはリボソーム内のタンパク質キナーゼの主要な基質であり、5つのC末端セリン残基のサブセットが異なるタンパク質キナーゼによってリン酸化されます。リン酸化は、成長因子、腫瘍促進因子、マイトジェンなど、幅広い刺激によって誘導されます。脱リン酸化は、成長停止時に起こります。このタンパク質は、特定のクラスのmRNAを選択的に翻訳することにより、細胞の成長と増殖の制御に寄与していると考えられます。リボソームタンパク質をコードする遺伝子に典型的であるように、この遺伝子にはゲノム中に複数の処理された疑似遺伝子が散在している。[RefSeq提供、2008年7月]

研究分野

画像データ



リン酸化 RPS6 (Ser240/Ser244) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、HCT116、C2C12、PC-12 細胞抽出物のウエスタンブロット分析。